# 編集後記

法政大学では2023年5月のGW明けに、コロナ過で制限されていた様々な規制が撤廃されました。授業は原則対面で行うことになったのはもとより、学内でグループでの飲食も可能になりました。2024年3月の卒業式後のパーティも4年ぶりに開催されることが決まりました。教員個人の研究活動においても、これまで多少制限されていた各地域への出張や訪問調査が自由になりました。ようやくコロナ前の日常に戻ってきたと感じており、我々地域研究センターとしても活動の幅を広げていきたいと思っています。

さて、本紀要も無事に16号を発行することができました。ご協力いただいた先生方や事務局に感謝いたします。本号においては、昨年度より投稿本数がかなり増えました。特に法政大学外部の方や様々な地域の方々からの投稿も多くありました。我々も本紀要へ投稿していただけるよう告知を増やしてきましたが、想定以上に多くの投稿をいただきました。これもコロナ後の研究活動の活性化によるものなのでしょうか。

投稿本数が増えた分、査読をしていただく先生方の数も必要になりました。査読は地域研究センター所属の先生方だけでなく、投稿内容や専門に応じて法政大学各学部の先生方や、他の大学の先生方にお願いしました。「地域」というキーワードは政策はもとより経済、文化、歴史、環境、福祉、スポーツ等、幅広い専門分野で取り扱われますので今後も査読をしていただく先生方の人数や専門分野を増やしていきたいと思っています。

また同時に、「執筆要領」に関して事前の問い合わせも増えてきました。これまでの我々の規定では取り扱っていなかった質問等もあり、改めて本紀要の「執筆要項」等を再認識する機会となりました。今後も、より良い紀要になるよう編集委員会でも継続して議論をしていきたいと思います。

最後に、本紀要の作成にあたっては、株式会社HESTA大倉様からの寄付金（研究助成）を活用させていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

編集委員　**松本 敦則**